

No. **123**
2026/3/2

ざんぐり



ようこそ動物園へ4
【2025/11/7】

-
- ・バス研修旅行報告 2、3
 - ・見聞レポート 6、7
 - ・ミニ講座「ようこそ動物園へ」報告 4
 - ・Small talk room 8、9
 - ・特別講座「京の食文化」報告 . . . 10
 - ・秋の地域活動報告 5
 - ・事務局便り 11、12
-

同窓研修会 継続入会のお願い



2026年度(令和8年度)も継続して同窓研修会に入会していただきますようお願い申し上げます。詳細は別紙を参照してください。

DosoKen

№123号





2025年11月

バス研修旅行「関空の裏側探検と岸和田散策」

三木永子



穏やかな秋の一日、私たち一行は、JR 京都駅から一路 高速道路で大阪南部の岸和田市に向かいました。

岸和田といえば、有名な だんじり祭り ですが、市内中心部で昔の面影を残す紀州街道沿いに、三層の天守閣が私たちを迎えてくれました。岸和田愛あふれるガイドさん方に導かれ、まず目にしたのは 本丸の石垣で東と南面の石垣の裾には、珍しい「犬走り」と呼



重森三玲作 八陣の庭

ばれるものや、上下の異なる石垣や水堀でした。戦国時代からの変遷を経て、遺構や近代城郭としての現在の城は、大阪城を見守る位置にあり、南部の要でした。また、独創的な庭園は 重森三玲氏作庭で、城郭の縄張をアレンジした八組の石組みで、これは中国三国志

の諸葛孔明の「八陣法」をイメージしたといえます。外敵から守る陣形として平和の願いを取り入れ天守閣を中心とした五行の生活観を表現していて、なかなか高く評価され 2014年には国の名勝にも指定されています。

すぐ隣の だんじり会館に移り、まず驚いた



展示された実物だんじりをじっくり観察

のは、だんじり大工の技と彫物師の匠でした。展示室では、様々な記録や文献の展示、また迫力満点のやりまわしの映像やお祭りがリアルに楽しめるシアターもあり、300 年もの歴史をもつ伝統を岸和田市民の手によって受け



岸和田城天守をバックに全員集合

継がれてきた姿に、また ボランティアガイドさんの熱弁にも圧倒される思いでした。

充実した見学のあとは、30 分あまりで関西国際空港へ。あっという間の近さに、海上空港としてもう 30 年近くも経ち、日本を代表する国際空港。

ダイニング
The brasserie で
ランチディナー



ここでみんなの楽しみの昼食バイキング(ホテル日航関西空港)です。

やはり 旅の楽しみは皆で美味しいお食事ですよね。

飛行機を眺めつつ、飛び立ちたい気持ちのまま、私たち一行は、バスで移動し、展望ホール SKY VIEW から、通常は立ち入り不可能な保安区で、機内食工場、貨物地区、メガソー



機内食を輸送車に積み込む

ラー付近、トラック待機場など広大な敷地内をオフィシャルガイドさんと共に廻りました。バスから降りて 一分毎に飛び立つ飛行機を轟音

と共に眺めつつ、私も飛んで行きたーいという思いに駆られ仕方ありません



航空機燃料タンク群

でした。飛行機マニアの心境そのもの、なかなか日頃は出来ない探検を企画して下さいたことに感謝しつつ、皆様 最後の空港でのお土産もしっかり買い込んで、バスは帰路、愛



彩ランド(JA いずみの農産物直売所)に立ち寄りしました。ここは、大阪で生産者の数が多い道の駅ランキング一位の地産地消の拠点「食」と「農」のシンボルということです。おいしいおみかん 最高でした。

帰路のバス車中では ビンゴゲームを企画してくださって、夢中になり、楽しいガイドさんのお陰で あっという間に、京都駅到着でした。(17 時 45 分)

今回も充実した内容の旅で、なにより皆様元気で楽しい一日となり、担当者の方々に感謝です。ありがとうございました。



2025年11月7日

「ようこそ動物園へ 4」 実施報告

講師 京都市動物園副園長
兼 生き物・学び・研究センター長 田中正之氏



「ようこそ動物園へ」も昨年に続き今回で4回目。参加者は34名でした。

昨年の動物園から今年にかけて、大きな変化がニシゴリラの一家にありました。

一つ目は、長男のゲンタロウ(13歳)が独立、上野動物園へお引越。名古屋の東山動物園のアニーとお見合います。繁殖の期待が高まっています。

ゲンタロウが生まれたのは2011年12月21日 京都市動物園ではニシゴリラの誕生は初めての経験です。そのため、成長の過程をビデオ等で克明に記録されていました。その写真やビデオを見ながら、ゲンタロウとゲンキ(母親)やモモタロウ(父親)との関わりや、ゲンタロウの賢さ等の説明を受けました。田中先生達のゴリラに対する深い愛情を感じました。

二つ目は、ゲンキの妊娠

2025年11月24日に第3子目を無事出産、性別は不明ながら、母子ともに元気な様子が動物園のHPで見ることができます
ゴリラの妊娠の周期は6~7年
母親は一匹の子供を大切に守るのだとか。
ゲンタロウと次男キンタロウの歳の差は7年です。うまくいけば、あと1回、妊娠の可能性があると期待されています。



「京都の森」は京都の豊かな自然を感じられるエリアです。絶滅危惧種であるオオサンショウウオをはじめ、日本の里山に生息する様々な動物や鳥類が展示されています。めったに姿を現さないオオヤマネコを見ることが出来るととてもラッキーだと、先生がおっしゃってました

当日は天候にも恵まれ、多くの子供達が遠足に訪れていました。例年、遠足は10月には終わっているのですが、夏の暑さのために一か月以上あとにずれ込んでいるそうです。

「京都の森」には植物も

チマキザサ・ツワブキ・ホトトギス



京都市動物園HPより

文：吉村辰江



2025年11月28日 秋の地域活動

武田薬品 京都薬用植物園見学会

11月紅葉真っ盛りのこの時期、「秋の地域活動」は古刹・曼殊院を囲むように広大な敷地で薬用植物を中心に約3000種を栽培している武田薬品・京都薬用植物園を訪ねた。起伏に富んだ9万4千平方メートルの敷地、実に東京ドーム約2個分もあり、遊歩道は芝生敷で、まるで高級ホテルの絨毯の上を歩いているようで凄く気持ちいい場所。



園内には、日本薬局方に収載されている生薬の基原植物が栽培されている「中央標本園」。

メディカルハーブの原料となる植物を栽培している「香辛料園」など、8つのコンセプトのエリアがあります。

2時間に亘り殆どのエリアを2班に別れ案内していただいた。途中、香りを嗅いだり、葉っぱ等で甘味や苦みを体感したりと非常に充実した時間であった。

温室で栽培されているバニラを見学。乾燥した筒状の物しか知らなかったため、実際に栽培されている状態のバニラを見るのは初めてで、インゲン豆のような姿で多年生のつる性熱帯植物。これがバニラ？その姿に驚き。

また、半日蔭で21度から29度の気温を必要とするため、日本で栽培するのは非常に困難とのこと。生産地でも花が咲くまで3年以上、開花から収穫まで約8か月、収穫から製品化まで3か月から6か月かかる。



苗の植え付けから最終製品完成まで最短で4年近くの歳月かかるとのこと。それを伺うとバニラビーンズが高価なものなずける。

今回、幾つかの薬草の説明で面白いものが、①キャットミント・・・この葉を猫が好むとのこと、同園でも野良猫がこの畑で葉っぱを食べながら、

一晩過ごして朝になると帰っていくとのこと。そんなに好きなのか。

②トリカブト・・・花は奇麗、猛毒としてサスペンスドラマなどによく登場する植物だが、その根を乾燥させた生薬を「附子（ぶす）」と言い、それを摂取すると脳の中樞神経が麻痺し、感情や思考が停止して無表情になると言われている。



その状態を「ブスだ」と表現し、転じて「美しくない人」や「無表情な人」を「ブス」と呼ぶ

ようになったという説があります。しかし、薬としても強心・鎮痛作用などがあり、体の冷えを改善する薬として弱毒処理を施して安全に利用されているとのこと。

今回の見学会では季節外れで見ることではできなかったが園内にはツバキ園があり、ここには旧来の園芸品種を後世に残すこと、また寺社に伝わる門外不出の銘樅のバックアップ機能を果たすことを目的に品種の保全に努められています。現在、約500品種が栽培されており、3月から4月が見頃で一面ツバキが咲き誇るとのこと、皆さんその時期にお出かけしてみたいいかがですか。

文：森下 一典



京都SKYシニア大学『京都見聞コース』レポート紹介

N08、9月24日石清水八幡宮 N09、10月1日下鴨神社

N010、10月22日松尾大社 N011、11月19日浄瑠璃寺、岩船寺

石清水八幡宮

ご祭神は、東御前：神功皇后、中御前：応神天皇、西御前：比咩大神、勅使参向の神社で、二十二社の上七社である。大小神社の首班に列し、国家の重大事や転変異変に奉幣使を立てた神社。三勅祭として春日祭・賀茂祭・石清水祭がある。石清水祭は仏教儀礼である放生会を加味した祭礼である。御祭文の色は黄色の烏子紙。



国宝建築物は、本殿・摂社武内社本殿・楼門・西門・回廊など、重要文化財建造物は摂社若宮社本殿・東西北総門・五輪塔等その他、多数の美術工芸品や天然記念物のクスノキがある。

黄金の雨樋：天正8年織田信長寄進の雨樋で、現在でも金の輝きがありすばらしかった。補修、修理がよく、手入れされているのがわかった。

信長塀：天正8年織田信長寄進の土塀で、カワラと土を幾重にも重ねることにより銃撃や耐久性、耐久力に優れていたとされる。

神鳩：鳩は“はちまんさん”の使いで、一の鳥居扁額をはじめ楼門の金具や社殿の彫刻などいたるところに神鳩がいる。いろいろ見所があり楽しかった。 K. T. さん



下鴨神社

十二単の着付けと舞、初めてであり良かったです。優雅な宮中の一部分でもその気分になれることができました。



下鴨神社では、毎年、御手洗祭に孫を連れて、足つけとみたらし団子楽しんでおります。

干支の各社、子や孫たちの分もお参りなので結局すべてのお参りで、小銭も充分用意しています。

檜皮葺など建物の修理や保存、周囲の糺の森とか小川のせせらぎも含めた

神社全体ご苦勞の大変さも良く分かりました。式年遷宮も大変でしょうが期待しています。歴史の重みを受け継いでいくことにも改めて思いをいたし、心してまたお参りしたく思っております。 S. F. さん



松尾大社

ご祭神：大山咋神（おおやまぐいのかみ）

中津島姫命〔市杵島姫命〕（いちきしまひめのみこと）

御由緒：「磐座祭記」太古の昔よりこの地方一帯に住民が、松尾山の山霊を頂上近くの大杉谷の上部の磐座に祀り生活の守護神として崇ったのが始まり。



「秦氏来住」渡来系の秦氏の集団が来住し、松尾山の神を秦氏の総氏神と仰ぎ、新しい技術等によりこの地方の開拓を行った。

秦氏と松尾大社 当時(平安京遷都前後)渡来の最先端の技術を駆使して、保津峡の開削、桂川の堤防の施設等により、土地の開拓等、又酒造や養蚕等も行い地域の伸興に寄与し

た。

松尾大社の社格等 平安京遷都以降、農産業、土木工業、酒造、養蚕等の最先端技術を後背として、社格は上がり、加茂社と並ぶ大社とされた。社殿は松尾造りと称される両流造りで、比例の無い美しさで重要文化財に指定されている、又松風苑三庭も高名である。M. S. さん



浄瑠璃寺、岩船寺

急に寒さがきびしくなって、雨もパラパラとふるような日でしたが、バスが浄瑠璃寺に着いた頃は、雨もあがり、寒さもそうでもなくなり、紅葉も見ごろの良い日になりました。

東に三重の塔、西に九体の阿弥陀如来がまつられていて、その間に池のある浄土式庭園のある、小じんまりとした美しいお寺でした。



ご住職のお話で、

東の三重の塔の薬師如来にこの世につれて来てもらって、西の阿弥陀様に浄土に迎えていただく、その間の歩き方をお釈迦様が教えて下さる。そのお話の中で、その生き方で

九段階あってそれにあつた阿弥陀様がそれぞれにむかえて下さる。それで九体の阿弥陀様がまつられているという話。浄土に九段階あるという事にびっくりしました。そういう信仰だったのでしょね。 O. K. さん

岩船寺では辰年、巳年生まれの守護本尊をまいることができありがたかったです。





『満たされず』 崩れ土塀に おのれ知る

『めぐる忌よ』 戦いの悲惨 声あげる

『山みどり』 萎えし心を 前向かせ

『橋灯る』 悔いなく生きた わが道よ

『我が家の灯』 古都に求めた 終の章

詠 谷口陽太郎

『冠句』の世界

私が興味を持ちました毎週月曜日朝刊（休刊日を除く）に掲載されている京都新聞文芸欄「冠壇」についてお話しさせていただきます。

冠句は松永貞徳の一門による俳句の連歌を源流として元禄6年（1693年）京の俳諧師・堀内雲鼓によって上の五文字出し、付け句の十二文字を作句とする最短詩文芸として江戸時代に大流行しました。（5文字の「冠題（かんだい）」に、7文字と5文字の「付け句（つけく）」を合わせて17文字（5・7・5）で表現する。）

昭和初期に至って太田久左太郎先生によって、それまで笠付けとか烏帽子付けと呼ばれていた雑句から真の文芸として「冠句」が誕生しました。

現在では「正風」文芸塔社と昭和50年代に佐竹一泉宗匠の手による「国風」国風冠句連盟があります。冠句は俳句の季語のような制約がなく、四季の生活風景と人生の哀歓を詠む抒情詩です。京都で生まれた冠句、私は京都にて終の棲家を求めこれを知り楽しんでいきます！ 恥ずかしながら私の冠句を少しだけご披露させていただきます。

文・詠 谷口 陽太郎 



久佐太郎氏
冠句碑
京・円山公園



原稿送付ご案内

メール：skydosoken@gmail.com まで

Word・Excel・写真類はJPG形式で

郵送：〒604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル

ハートピア京都2階 京都SKYセンター内

京都SKY大学同窓研修会「ざんぐり」編集係宛

-  原稿に関連した写真も添えて下さい。
-  メール、郵送とも、お名前、連絡先（ 番号）を明記ください
-  匿名を希望される方は、その旨明記ください
-  投稿は同窓研修会会員限定とさせていただきます。
-  投稿多数の場合は編集担当による選考となります。
-  お送りいただいた原稿の返却は致しかねますのでご了承下さい

特別講座 京の食文化「生き続ける企業を目指して」

日時 2025年12月15日(月)

講師 鈴鹿 可奈子氏 (株)聖護院八ッ橋総本店 代表取締役社長

まず、先生からの質問。

「八ッ橋をご存知でしょうか？」

「最近、八ッ橋を食べられたことありますか？」「八ッ橋と言えば、どちらの八ッ橋をイメージされますか？」

若い人達は左の生八ッ橋をイメージし、シニア世代は右の硬焼き八ッ橋をイメージされると思います。



米粉・砂糖・ニッキを主原料とし、琴の名手・八橋検校にちなんで名付けられたとされる。

当時柔らかい食べ物は少なく硬い八ッ橋は口に含んで食べられていたのではないかとされている。

※「聖の誕生」

1960年(昭和35年)祇園一力のお茶会で「生八ッ橋であんを包んだ」八ッ橋が使われ「神酒餅」



ミキモチと名付けられ、1967年(昭和42年)より一般販売された。

八ッ橋は時代の変化に合わせて、新ブランドnikiniki(2011年3月26日)を誕生させ「新しい八ッ橋のお召し上がり方」を提案する。



このように八ッ橋は、生き続ける企業として、100年続く店というものも大切だけれど、変わらない「京都らしさ」と変わり続ける「現代的な魅力」(生八ッ橋を使った商品、八ッ橋関連商品、シナモン関連商品の開発において、グローバルな和菓子を展開されている。)が共存していることこそが、京の食文化のみならず日本の食文化に結びついているのではないのでしょうか。

文 八田 留美子



八ッ橋は京の食文化?(補足)

はい。八ッ橋は八橋検校や伊勢物語に由来する歴史を持ち、単なるお菓子ではなく、歴史、文化、人々の暮らしと深く結びつき、京都を代表する銘菓であり、京都土産の定番として定着した京都の食文化を象徴する存在となっています。



訂正とお詫び

昨年 12 月 1 日発行のぞんぐり 122 号の記述に誤りがありました。
訂正箇所は以下の通りです。

ページ	箇所	誤	正
3	左欄下から 7 行目	磯田道夫氏	磯田道史氏
	右欄 9 行目	64,343 人	6,434 人
6、7	計 8 ケ所	疎水	疏水
12	7 行目	治まっている	納まっている
	12 行目	排出してきた。	輩出してきた。
	14 行目	お参り	手を合わせてお参り
	下から 21 行目	内陣と下陣の	内陣と外陣の
	下から 3 行目	得をつむ。	徳をつむ。
13	左欄 15 行目	加納派代々の	狩野派代々の
	右欄 3 行目	塔頭を持ち、	塔頭寺院を持ち、
	右欄 4 行目	琵琶湖疎水が	琵琶湖疏水が
	右欄 5 行目	教学部長も	教学部長の
	右欄 11 行目	加納永徳らに	狩野永徳、狩野探幽らに
	右欄 13 行目	琵琶湖疎水の	琵琶湖疏水の
	右欄下から 11 行目	須弥壇中央に	須弥壇上中央に
	右欄下から 9 行目	端龍図が	瑞龍図が

原稿を執筆していただいた方々にご迷惑をおかけして、誠に申し訳ございません。
今後は編集作業の確認体制を強化して、再発防止に努めてまいります。



事務局便り2

行事予定・ほか



* 令和8年度通常総会・講演会 * 詳細は同封しました別紙を参照して下さい。

- ・日 時 2026年4月24日(金) 午後1時30分～
 - ・場 所 ハートピア京都 3階 大会議室
 - ・講演会 午後3時～4時30分
- 講 師：権藤洋一 東海大学医学部 分子生命科学領域 客員教授
演 題：ヒトゲノム 30 億文字がつむぐところとからだ

講演ピックアップ

生命科学は 21 世紀に入りさらに超高速な進展を続けています。
このところ、よく耳にするようになった「ゲノム」ですが、「遺伝子」とも「DNA」とも言われ、その違いが混同されがちです。遺伝は変えられない一方で、遺伝子は鍛えることができます。また、遺伝子の機能によってヒトのことも左右されていることなどまず簡単に紹介します。

ゲノム研究によってがんも治療できる時代となり、がんゲノムと呼ばれる個別化医療によって不治の病と言われていたがんも今では治る病気として注目されています。さらには、病気の診断治療にとどまらず、老化防止や健康長寿についても超高速に研究が進んでいます。

瞬きしている間に科学の進歩が！！ 生命の謎、神秘の世界に身を置き、
講師からのメッセージを受けながら、生命科学の世界を歩いてみませんか！！

※ 別紙にても講演案内を紹介しています。

* 春のバス研修旅行 * 詳細は同封しました別紙を参照して下さい。

- ・日 時 2026年5月25日(月)
- ・行 先 大和郡山「大河ドラマ館」、シャープミュージアム、山の辺の道等

* 健康トライアルウォーキング * 詳細は同封しました別紙を参照して下さい。

- ・日 時 2026年4月20日(月)
- ・行 先 鴨川河川敷 四条大橋～北山大橋

* 京都見聞・こぼれ話

第 20 号「JR 二条駅の西周辺を歩いてみると・・・思い出がよみがえる」をお届けします

発行 / 京都SKY大学同窓研修会

編集 / ざんぐり編集委員会

☎604-0874 京都市中京区烏丸通丸太町下ル ハートピア京都2階
公益財団法人 京都SKYセンター内 ☎075 (241) 0226 FAX 075 (241) 0204